

5. 2005年度の業績見通し(連結)

2004年度の前半は、デジタル家電を中心としてIT市場も盛り上がりを見せましたが、年度途中からの原油高やアメリカの金融引締めへのマイナス影響、デジタル家電の在庫調整などから後半には急速に軟化しました。

2005年度の足元の景況は、世界経済を牽引してきた米国、中国の成長にさらに軟化の傾向が見られます。一方、欧州の景況はユーロ高の影響など不安定要素はあるものの緩やかに回復しており、国内のIT投資にも緩やかな成長が見込める状況にあります。下半期からはデジタル家電の在庫調整終了による回復が見込まれています。

このような状況の下、当社グループは、世界最先端のテクノロジーを追求するハードウェアとソフトウェア・サービスのトータルソリューションを、お客様のライフサイクルに亘って高い満足レベルで提供するため、営業とSEの一体化、グループのフォーメーションの革新など、効率的な仕組みの整備に一年間取り組んでまいりました。

これらの努力に基づき、現在のセグメント区分を当社のお客様を主体に見た製品区分に本年度より見直し致します。まず、テクノロジーソリューションは、お客様の求める高性能・高品質のプロダクトとソフトウェア・サービスのトータルソリューションを提供する富士通グループの中心ドメインと位置付け、利益と成長を追求してまいります。

次に、ユビキタスプロダクトソリューションは、パソコンや携帯電話、ハードディスクビジネスといった、これからのユビキタス社会で個人のニーズにより密接した製品を取り扱う分野として、スピードと品質そして原価低減を追求してまいります。

さらに、デバイスソリューションでは、一連の事業構造改革やアライアンスにより経営資源を最先端のロジックLSIに集中し、関連する部品ビジネスとともに他社に真似のできない先端技術と品質そして効率性を追求してまいります。

一方、2003、2004年度には各種の財務体質改善施策により、バランスシートのスリム化を進め、各財務指標はITバブル崩壊前の2000年度に肩を並べるまで回復してきております。本年度は国際財務報告基準(IFRS)への移行を目指し、国際標準の視点でさらに会社の仕組みを見直し、合わせてリスク項目の整理をしていきます。

今期は売上の平準化を推進することで利益の平準化を図るとともに、年初目標を上回る利益の積上げに一層の努力を傾ける所存です。

これらを踏まえ、現時点における2005年度の業績見通しを以下のとおりといたします。

(単位：億円)

	第1四半期			第2四半期		
	2004年度	2005年度	増減率	2004年度	2005年度	増減率
売上高	10,081	10,100	0.2%	12,119	11,900	▲ 1.8%
営業利益	▲ 43	▲ 100	-	376	250	▲ 33.6%
経常利益	▲ 158	▲ 350	-	198	50	▲ 74.8%
当期純利益	▲ 118	▲ 300	-	36	-	-

	中間期			通期		
	2004年度	2005年度	増減率	2004年度	2005年度	増減率
売上高	22,200	22,000	▲ 0.9%	47,627	48,500	1.8%
営業利益	332	150	▲ 54.9%	1,601	1,750	9.2%
経常利益	40	▲ 300	-	890	1,000	12.3%
当期純利益	▲ 81	▲ 300	-	319	500	56.7%

セグメント別では、テクノロジーソリューションは、主にネットワークプロダクト、ソリューション/SEの収益性の大幅な改善により増収増益となりますが、ユビキタスプロダクトソリューションは、パソコン、HDDの価格競争の激化により増収ながら減益の見込みです。デバイスソリューションは、ディスプレイ事業が連結グループ外になったことにより売上減・損失減となり、三重工場の300ミリメートルラインの立上げに伴う初期費用負担増により減益となる見込みです。特にデバイスソリューションの中間期は市況の悪化と合わせて前年比で大きく悪化する見込みです。

【主要セグメント別】

(単位：億円)

		2004年度 (実績)	2005年度 (予想)	前年比	増減率(%)
テクノロジーソリューション	売上高	29,350	30,000	650	2.2%
	営業利益	1,430	1,800	370	25.9%
	利益率	4.9%	6.0%	1.1%	
システムプラットフォーム	売上高	7,670	7,600	▲70	▲0.9%
	営業利益	360	400	40	11.1%
	利益率	4.7%	5.3%	0.6%	
サービス	売上高	21,680	22,400	720	3.3%
	営業利益	1,070	1,400	330	30.8%
	利益率	4.9%	6.3%	1.4%	
ユビキタスプロダクト ソリューション	売上高	10,310	10,500	190	1.8%
	営業利益	300	250	▲50	▲16.7%
	利益率	2.9%	2.4%	▲0.5%	
デバイスソリューション	売上高	7,950	7,500	▲450	▲5.7%
	営業利益	330	200	▲130	▲39.4%
	利益率	4.2%	2.7%	▲1.5%	

*売上高はセグメント間売上高を含んでいます。

新セグメント区分内訳

セグメント	サブセグメント	主要製品・サービスの内容
テクノロジーソリューション	システムプラットフォーム	
	システムプロダクト	各種サーバ(グローバルサーバ、UNIXサーバ、IAサーバ)、情報システムを構成する周辺装置(ディスクアレイ等)、各種ソフトウェア等 企業向けパーソナルコンピュータはユビキタスプロダクトソリューションに含まれています。
	ネットワークプロダクト	光伝送システム、モバイルシステム(第三代(3G)携帯電話基地局システム等)、IPシステム等
	サービス	
	ソリューション/SI	システム構築(システムインテグレーションサービス)、システムの導入・運用支援、コンサルティング等
	インフラサービス	情報システムの一括運用管理(アウトソーシング、IDCサービス)、情報システムに必要なネットワーク環境の提供及びネットワークを利用した各種サービスの提供(ネットワークサービス、インターネットサービス)、情報システム及びネットワークの保守・監視サービス等
	その他	情報システムの設置工事及びネットワーク工事、専用端末装置(現金自動預払機、POSシステム)等
ユビキタスプロダクト ソリューション	パソコン/携帯電話	パーソナルコンピュータ、携帯電話
	HDD	記憶装置(小型磁気ディスク装置、光磁気ディスク装置)
	その他	光送受信モジュール
デバイスソリューション	LSI	ロジックIC(システムLSI、ASIC、マイクロコントローラ、FRAM搭載ロジック)、メモリIC(フラッシュメモリ、FCRAM)
	電子部品他	半導体パッケージ、SAWフィルタ、コンポーネント等

この資料に記載した内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知のリスクや不確実な要因により、実際の結果・業績または事象と異なることがあります。実際の結果・業績または事象に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます(但しここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません)

- ・主要市場における景気動向(特に日本、北米、欧州)
- ・ハイテク市場における変動性(特に半導体、パソコン、携帯電話など)
- ・為替動向、金利変動
- ・資本市場の動向
- ・価格競争の激化
- ・技術開発競争による市場ポジションの変化
- ・部品調達環境の変化
- ・提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- ・不採算プロジェクト発生の可能性